

平成7年度 通常総会を開催



27日、大分市のコンパルホール、多目的ホールにおいて、令和7年度通常総会を開催した。提案した全ての議案が賛成多数で可決、成立した。

本年度は役員補欠選任があり、理事1名が選任された。総会後直ちに第4回理事会を開催し、専務理事に大屋寛氏を選定した。▽7面に紹介

JF大分

水産おおいた

2025年
07月

179号

発行元
大分県漁協

<http://www.jf-oita.or.jp/>

2 面

団体総会

3 面

漁業士連絡協



4 面

韓国で拡販へ



5 面

水研だより



6 面

県議会
海区漁調委

7 面

大屋専務就任
源さんに献杯

総会当日の正組員数223
2人中1834人が出席し、内
書面議決による出席1754
人、総会は成立した。

冒頭 中根組合長が挨拶 前年度の実績を踏まえて7年度の推進方向を示し、組合員の協力を仰いだ 次いで県農林水産部の大塚猛審議監及び農林中央金庫福岡支店Jエムリンバンク九州担当の山本康介部長から祝辞をいただいた メッセージ 祝電を披露した後 議長に茅野眞二氏を選出し議事にふた

第1号議案 第23事業年度（令和6年度 事業報告及び剰余金処分案の承認についてから第9号議案 役員の補欠選任について）まで いずれも賛成多数で承認した また 報告事項として 第23事業年度 令和6年度 貸借対照表 損益計算書及び注記表について 及び 行政庁検査に係る総会報告についてを説明した

出席組合員からは 特に質疑はなかった

組合員の皆様方へ



組合長挨拶 (概要)

昨年度は1月に天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ「第43回全国豊かな海づくり大会」おんせん県おおいた大会が開催された。天皇陛下からは、大分は全国でも有数の水産物の産地です。長年にわたる皆さんの努力に深く敬意を表します。人々の海や水産業の関心と理解がより深まり、豊かな海づくりの輪が大分の地から全国、未来に向けて大きく広がっていくことを願います。」とお言葉を賜った。つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外、広く訴え、四季折々の魅力あふれる多様な水産物に加え「おんせん県おおいたの新たな魅力を全国、広く発信することができた。組合員の積極的な協力と参加の賜物である。

当漁協は、厳しい環境を克服するため、組合員や漁協の経営

改善に向け、組織の再編、業務効率化、事業の重点化、信用事業譲渡等について協議、検討の加速化、不良債権の処理などに取り組んだこの結果、事業毎に大きな引当金を計上したことにより、事業利益段階では厳しい決算としたが、当期剰余金の段階では約4億円の黒字となり、自己資本比率も大きく改善した。組合員の皆様の積極的な増資や漁協利用の成果である。

本年度の事業計画では、販売事業の強化など経済対策を進めるとともに、県漁協の経営基盤の強化と健全性の確保に向け自己資本の拡充に努め、信用事業譲渡に向けた検討も加速する。特に、昨年竣工した蒲江加工センターを活用し、既存の米水津や杵築の加工場とも合わせて産地加工の一層の推進を図り、輸出を含めた販売の多様なニーズに対応した販売を強化する。

今後とも、本県漁業の課題をひとつひとつ解決しながら、組合員の経営安定と協同組合活動の発展に向け、役職員一丸となって精進するので、組合員の理解と協力をお願いする。

県 J F 共 済 推 進 本 部

3日、大分県JF共済推進本部(中根隆文推進本部会長)は県水産会館において定例総会を開催した。

冒頭、中根会長は出席した各地区の漁業運営委員長に対し「昨年度の推進活動はたいへんに尽力をいただいたが、特に普通厚生共済チョコーで歴史的な苦戦を強いられた。本日は3か年計画をの最終年度を締めくくる重要な総会。共済活動の目指す方向を確認し、組合員に寄り添い、漁協収益に貢献する事業として発展する契機したい」と挨拶した。

議事に先立ち、来賓として出席した全国共済水産業協同組合連合会の中島健常務理事から中根会長に共水連会長の表彰状が手交された。これは、生活総合共済くらしの保有の伸長率が全国一となった特別表彰。

議事では、設置規程の一部変更、2024年度活動報告、2025年度活動計画(案)及び漁協還元奨励策等が附議され、いずれも承認された。



全国共水連の中島常務理事(左)から特別表彰を受ける中根会長

県 資 源 管 理 協 議 会

大分県資源管理協議会(高田淳史会長)は5月30日、県水産会館で通常総会を開催した。

第1号議案「令和6年度事業実績及び収支決算について」から第6号議案「諸規程の変更について」まで、すべての議案を承認した。次いで、第1回定例会を開催し、令和6年度第4四半期分の履行を確認した。第2回定例会は、7月下旬に旋網等の履行を確認する。

緑色LED照射で成長を促進するマコガレイの育苗生産をご視察



団体総会

おおいたブランド流対本部



「The.おおいた」ブランド流通対策本部(淵野勇本部長)は2日、トキハ会館「ローズの間」で総会を開催した。

第1号議案の令和6年度事業実績の中で、水産物について次のとおり報告があった。

・11月開催の「全国豊かな海づくり大会」を契機に、大手量販店やファストフード店等への販促活動を強化した。

・特に、パートナーシップ量販店「ベルク」、「ウオロク」及び「オギノ」では大分フェア等を開催し、養殖ブリ等をPRした。

・関西を中心に「屋台居酒屋大阪満マル」等を展開するイトファクトリーHDを「パートナーシップ飲食店」に認定し、かぼすブリのメニュー提案につなげた。

第2号議案の7年度事業計画で水産物は、メーカー(漁業管理課)やマーケティングアドバイザー(うおいち:関西、三共物産:九州)と連携し、産地とのマッチングを推進しPRに取り組むこととなった。

県 漁 業 公 社

公益社団法人大分県漁業公社は26日、県水産会館において第15回通常総会を開催した。

第1号議案「定款の一部改正について」は、本年4月から公益法人制度が変わり、自律的ガバナンスの充実と透明性向上を図るため、外部理事・監事の導入が必要となったことに対応するもの。外部監事は既に設置していることから、外部理事を設置するために定款を変更し、理事定数を1名増やす。

第2号議案は令和6年度事業実績、第3号議案は令和7年度事業計画、第4号議案は令和7年度役員報酬について、いずれも原案を承認した。燃料費などの種苗生産経費が増加したことなどから、厳しい事業実績となった。

第5号議案「任期満了に伴う役員の選任について」では、外部理事として海洋科学高校校長の堤進氏が選任された。

総会後の理事会では、大塚猛大分県農林水産部審議監が理事長に選定された。

全体研修会と通常総会を開催 大分県漁業士連絡協議会

14日、別府市で同協議会の全体研修会及び通常総会が開催され、会員ら53名が参集した。

研修ではスマート水産業について学んだ。

総会では役員改選があり、上入津支店の小野宗一郎氏(真珠養殖)を会長に選任した。



全体研修会

スマート水産業を学ぶ

福岡県水産振興課漁船漁業係長の長本篤氏を講師に招き、水産業のスマート化による就業対策と成長産業化について学んだ。長本氏は、令和4年度の全国青年女性漁業者交流大会で農林水産大臣賞を受賞した「鐘崎あまはえ縄船団のスマート漁業」について講演した。



講演する福岡県水産振興課の長本係長

【講演要旨】

漁船団の観測データ等を九大の協力を得てスパンで解析し、潮流や水温等を予測するシステムを開発した。漁業者は専用サイトに配信される予測データ漁具をスマートで確認できる。出漁前に好漁場が確認でき、岩場の網がかりも解消され、燃費の改善や操業時間の軽減につながった。はえ縄以外の漁業にも波及し、スマートを持たない漁業者には無線も活用している。水産庁の委託事業で始めたことから、機器等の導入には一定の支援が得られた。

次いで、本県水産振興課の都留主幹が大分県のスマート水産業について説明した。

【説明要旨】

- ・大分県では、短期研修や漁業学校、給付金、補助事業等の支援により新規漁業就業者を確保。
- ・一方で定着には、新規漁業就業者が抱える課題や不安に対して、漁村全体での日常的なバックアップが必要。
- ・漁村の課題に対して、漁場ナビ、探索ドローンや自動給餌機などのスマート機器の活用が有効ではないか。
- ・今年度、養殖部会とまき網部会での、スマート機器の導入に向けた試験的取組を紹介。



豊の浜塾 一期生 地獄のオーストラリア研修旅行

これほど過酷な海外旅行はもう二度となかろう。強者ぞろいの一期生、ひとりに対応するのも大変な方が10名ほど。早朝の市場調査は当然としても、前夜は未明まで県職員部屋で大宴会。全員が喫煙者なので、ベットに入る頃はアヘン窟状態である。これが例外なく毎日繰り返されるので、帰国時は廃人であった。引率は本庄主幹と大屋主査。奇しくも今回専務理事をバトンタッチしたふたりだ。



(上) ポートリンカーンでマクロ養殖を視察
(下) シドニー空港にて

けた試験的取組を紹介。スマート機器の導入について、認定を受けた普及指導員が伴走者としてサポートするので、課題解決に向け気軽に相談してもらいたい。

第27回通常総会

実績と計画を承認

役員を改選
研修会に続き、第27回通常総会があった。6年度の経過と決算、7年度の計画と予算を承認した。役員改選結果は表のとおり。

第14期大分県漁業士連絡協議会役員

役職名	氏名	所属支店名	所属部会名
会長理事	小野 宗一郎	上入津	真珠養殖
副会長理事	松下 雄基	津久見	まき網
理事	廣 津 豊	日出	底びき網
理事	吉 良 学	臼杵	潜水
理事	森岡 道彦	下入津	魚類養殖
監事	宮本 新一	佐伯	浅海養殖
監事	清水 剛	大分	漁船漁業



韓国での販路拡大を目指して ～県と連携して現地調査・商談～

活魚船から水揚げ



陸上40トン水槽



飲食店にも活魚水槽



鮮魚には氷なし



本県の令和6年における養殖ブリの生産量は16,200トンで鹿児島県、愛媛県に次いで全国第3位を占める。このうち1割弱の1,413トンが海外に輸出され、現在の主要な相手国は韓国となっている。このようなことから、さらなる拡販を目指し、県と県漁協は韓国の釜山と統営に渡り、市場調査や現地事業者との意見交換、商談を行った。

訪問先の事業者はJD Trading Co.,Ltd(活魚販売業者)。40tの陸上水槽を38基保有し、活魚船から陸上水槽に移し、取引先(ソウル、プサンなどの首都圏)に出荷している。

同社によれば、日本のブリは脂の質が良く人気だが、刺身や寿司には活魚が使用され、ブリもカンパチも大型魚(8～9キロ)が好まれる。寿司店には韓国式と日本式があり、前者は活魚を好んで使用する。日本式では数日寝かせた魚を使用するため、フィレの需要も考えられる。

いずれにしても、鮮魚より活魚の嗜好が根強く、現状ではフィレ等の加工品の大きな需要は見込めない。また、中国と同様に大型魚が好まれる点も隘路となりそうだ。

この他、一行は海雲台伝統市場、ロッテマーケット、ロッテ百貨店及びチャガルチ市場で水産物の販売状況等を視察、調査した。飲食店にも活魚水槽が設置されているのに対し、鮮魚には氷も打たれず販売され、ここでも活魚重視が窺われた。

また、統営市ではマダコの蓄養状況も視察した。1キロ未満のマダコを1.5キロまで給餌・育成し、日本に出荷予定とのこと。35トンが収容されていた。



マダコ蓄養状況



全国漁港漁場協会が総会 会長に田中前水産庁部長、中根組合長は理事に就任

全国漁港漁場協会の第82回定時総会が5日、東京都の全日通霞が関ビルであった。

令和6年度決算、令和7年度会費及び役員報酬の額等に係る全議案が承認された。任期満了に伴う役員の改選では、理事30名及び監事4名が選任され、当漁協の中根組合長は理事に就任した。総会後の理事会では、退任した前会長の高吉晋吾氏に代わり前水産庁漁港漁場整備部長の田中郁也氏を会長に選んだ。田中新会長は「地域の声を関係省庁に届け、海業の取組などを推進したい」と抱負を述べた。

同会場では、全国漁港海岸防災協会の第33回通常総会、理事会も行われ、前衆議院議員の衛藤征士郎氏が会長に再任された。



水 研 だ よ り

アサリで赤潮の退治に取り組んでいます

本県では、毎年「赤潮」が頻発し、漁業被害も発生しています。赤潮とは、主に植物プランクトン等が増殖し、海水の色が変わる現象です。養殖現場からは赤潮対策技術が強く求められており、水産研究部では令和6年度から、植物プランクトンを食べるアサリを利用して赤潮の被害が減らせないか試験をしています。

アサリを収容した水槽に有害プランクトン3種(ヘテロシグマ・アカシオ(以下、ヘテロシグマ)、シャットネラ属(以下、シャットネラ)、低密度及び高密度のカレニア・ミキモイ(以下、カレニア)を入れて、実際に食べてプランクトンが減少するか確認しました(写真1及び2)。ヘテロシグマとシャットネラ、低密度カレニアの各試験区で有害プランクトンの減少が見られました。一方、高密度カレニアの試験区では、有害プランクトンが減らなかったうえに、プランクトンが増えました。今後は、問題点を解決するための試験を実施します。

また、アサリ種苗の中間育成試験も実施しており(写真3及び4)、この種苗を利用し県内各地の普及員が生産者とともに現地養殖試験を実施しています。これらの取組を赤潮対策技術として養殖現場で実用化し、赤潮による漁業被害の軽減に貢献することを目指していきます。



写真1 赤潮に入れたアサリ



写真2 各種赤潮を入れた水槽



写真3 アサリの試験養殖かご



写真4 かご養殖で成長したアサリ

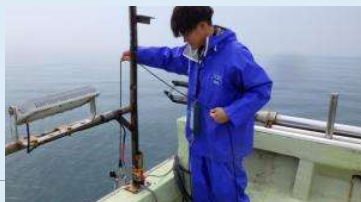
水産研究タイムリー情報

赤潮・貝毒プランクトン調査 実施中！

5月27日 北部水産グループ 養殖環境チーム

今年度も毎月2～3回、本県瀬戸内海域において赤潮や貝毒の原因となる植物プランクトンの出現状況をモニタリングしています(赤潮16定点、うち5定点で貝毒調査も実施)。

併せて水温や塩分、溶存酸素量などの環境項目も調査しており、これらの調査結果はホームページ等を通じて公表しています。



海藻を魚の食害から守るために

6月5日 北部水産グループ 養殖環境チーム



海洋環境の変化に伴い、活発化した藻食性魚類が多数来遊し、これまで以上に海藻を食べるといわれています。

そのため魚に食べられにくくした剣山型の藻場魚礁を東部振興局が日出町の協力を得て試作しましたので、連携して調査を始めました。

当グループから提供したカジメと一緒に海中に沈め、水中カメラも活用して、今後の経過を観察します。



今年もオゴノリの天然採苗に取り組めます

6月2日 北部水産グループ 養殖環境チーム

寒天などの原料となるオゴノリの養殖実用化に向けて、今年もオゴノリが成熟するこの時期に宇佐市地先の干潟に採苗用のノリ網を設置しました。

成熟したオゴノリから放出された胞子がノリ網に付着するのを待ちます。昨年よりさらに沖合にも設置し、採苗に適した場所などを探る予定です。



ヒジキの種苗生産がはじまりました

6月10日 北部水産グループ 養殖環境チーム

今年もヒジキが成熟する時期となったので、種苗生産をはじめました。

母藻の成熟状態を見極めながら採卵作業を行います。受精卵はコンクリートブロックなどに付着させて育てます。この時期、担当者は大忙しですが、ブロックのうえで成長するヒジキがいずれ海中で大きく育つことを期待して作業を進めています。



県議会第2回定例会 水産関係質疑応答

県議会は6月12日に令和7年第2回定例会を開会。18～20日の間に一般質問を行った。

成迫健児氏 県民は農林水産物の海外展開について、阿部長夫氏 自民は水産物の振興について、また首藤健二郎氏（自民は農林水産物の輸出促進について聞いた。

農林水産物の海外展開について



成迫健児議員

米国関税措置の影響について

【質問 成迫議員】

米国も重要な輸出先である農林水産物において、今回の関税措置の影響をどのように受け止め、今後どのように取り組むのか。

【答 佐藤知事】

養殖ブりは米国は輸入に依存しており関税措置の影響は軽微だが、状況を見極め必要な対策を講じる。輸出先国の多角化も大切であり、台湾の養殖ブリーフィロイン等加工品の販路開拓を進める。中国の輸入解禁も念頭に、現地商社との連携を強化する。海外市場の多様なニーズを的確に捉え、新市場の開拓に取り組む。県産農林水産物の輸出拡大

団体とも連携し、県産水産物の輸出拡大を一層推進する。

水産物の振興について



阿部長夫議員

【質問 阿部議員】

水産物のブランド化やマーケットの設置など特色あるブランド戦略に取り組んできた優位性を踏まえ、今後、水産物の振興にどのように取り組んでいくのか。

【答 佐藤知事】

全国豊かな海づくり大会による機運の高まりを好機と捉え、元気な担い手が活躍する魅力ある水産業を目指し、「つくり育てる

農林水産物の輸出促進について



首藤健二郎議員

【質問 首藤議員】

農林水産物の輸出拡大を図るためには輸出先の多角化が必要。今後農林水産物の輸出促進にどう

漁業の推進と、県産魚の消費と販路の拡大に取り組む。つくり育てる漁業では、漁場生産力の回復、マグレイ等の集中放流と保護、高級魚キジタの量産と放流手法確立に取り組む。養殖業では、環境変化に対応する手法の実証や低コスト飼料等の

実用化を進める。県産魚の消費では給食の県産魚の提供による魚食普及、販路の拡大では新たな認定店獲得による県外展開や輸出を強化する。こうした取り組みで水産物の成長産業化を進め、豊かな海を次世代に伝える。

【答 洲野部長】

令和6年度の輸出額は、旺盛な海外需要を受け養殖ブリ等が牽引して過去最高の57億円超となった。引き続き海外の多様なニーズを捉え、県漁協蒲江加工センターを活用し台湾のフィレ加工品等の販路拡大を進め、養殖ガキなども併せてPRし、15年度の輸出額目標80億円達成を目指す。

大分海区漁調委

第3回委員会

6日、県水産会館5階研修室において第3期大分海区漁業調整委員会第3回委員会が開催された。

第1号議案 知事許可漁業の制限措置及び申請期間並びに許可の有効期間については、許可申請を受ける、小型機船底びき網漁業手繰第3種貝けた網漁業において、事前に公示する制限措置及

び申請期間並びに許可の有効期間について知事から諮問を受けたもので、異議ない旨答申することにした。

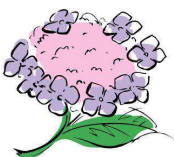
第2号議案 知事管理漁獲可能量の設定については、7月から翌年6月を管理期間とする特定水産資源、まさば及びこまさば太平洋系群の知事管理漁獲可能量を現行水準（目安数量641

とすることと異議のない旨答申することにした。

第3号議案 連合海区漁業調整委員会に關係する事前協議の委員派遣については、今後開催予定の周防灘及び豊予連調委に關連する事前協議に關係委員を派遣することを決めた。

その他、知事管理漁獲可能量の追加配分については、国からくるまぐろに係る漁獲可能量の追加配分が示されたため、事前に定め

たルールに従い、その全量を知事管理区分に配分したことが報告された。追加配分は小型魚10ト、大型魚は漁獲可能量を超過したため無し。併せて、小型魚の配分を大型魚に振り買えたため、変更後の漁獲可能量は、小型魚149ト、（当初141ト）、大型魚21ト、（当初186ト）となった。



大屋寛さんが専務理事に就任しました

27日の総会で理事に選任され、第4回理事会で専務理事に選定された大屋さんを紹介しします。

大屋さんは鹿児島県大島郡喜界町出身の61歳。平成2年3月鹿児島大学大学院を修了、同年4月大分県職員に採用されました。行政、研究、普及などをバランスよく務め、平成31年南部振興局農山漁村振興部長、令和3年水産振興課長、5年漁業管理課長、6年には農林水産部審議監(水産担当)に就任し、7年3月に退職しました。

日本酒をこよなく愛する痛風友の会の会員です。組合員、役職員の皆さん、よろしくお願い致します。



追悼

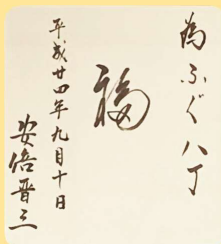


大分県漁協前理事(前別府地区漁業運営委員長)
豊島功梯は 六月十日
享年七十五歳でご逝去されました
生前のご功績を称えますとともに
謹んでご冥福をお祈りいたします



宴席で最も通たのが別府ふぐ八丁で、あつ。後者は現役なので、そのうち逆転するかも知れない。

ふじ乃には30歳台後半の頃から月二で通た。当時の会費は1万円。薄給公務員には分不相応で毎回やりくりが厳しかった。定期的に集まったのは、漁業にゆかりの深い首長さん、県議さんと県の水産技術職員で、大分の水産について語り合う趣旨だった。時には総務部長や副知事が顔を出すこともあった。夕刻勤務が終るとJRに乗って別府。まずは温泉で汗を流し浴衣に着替え、果てしなき宴会に突入した。そのまま沈没することもあるが、朝食も秀逸だった。特に老舗長寿味噌のみそ汁には癒やされた。



ふじ乃が閉店となり、あとを引き継いだ会場がふぐ八丁である。可能な限りふじ乃のママさんにも参加して頂き回数こそ少なくはしたが、今でも続いている。肉厚に切った刺身、ちぶり身のある唐揚げ、ひれ酒に白子焼き、夢の世界である。1回だけ飲む機会があった。白子酒は絶品であつたが、絶品としか形容のしようがない。痛風持ちの天敵であることは間違いない。

だからと書き連ねたが「ウオメシ」も今回で最終回である。楽しみにして下さる方もあり、九州じやらんにも取り上げられ、編者自身も楽しいコーナーであつた。お薦めの魚料理があれば、是非私にも教えてほしい。



絶品！白子酒



サカナを食べれば
幸福が見えてくる

ウオメシ

最終回
宴会は続く

編集後記

令和7年度通常総会をもって専務理事を退任しました。山本前組合長の最終年、中根組合長の就任から2期目までの足かけ3期5年間の任期となりました。皆様にはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

就任からしばらくは口ナ禍で変則的な勤務が続きましたが、昨年は待望の蒲江加工センターが竣工。11月には、全国豊かな海づくり大会も盛会裏に終えることができました。県の新入として第1回大会を担当して以来43年、今回は県漁協の一員として関わることができ感無量です。

本紙「水産おおいた」の編集も仕事のひとつでした。各地域で苦勞されている組合員さんや職員さんのご活躍を紹介したいと意気込みましたが、なかなか現地にも行けず失礼しました。多くの皆さんの情報提供に助けられ、なんと60回の発行が出来ました。

退任後は再び県関係の仕事に戻りますが、大分海区漁業調整委員会や大分県漁港漁場協会の業務を通して、水産業界とは繋がっていたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

大分県漁協の健全な発展と関係する皆様のご健康、ご活躍を祈念させていただきます。編集後記に代えます。(本庄)